

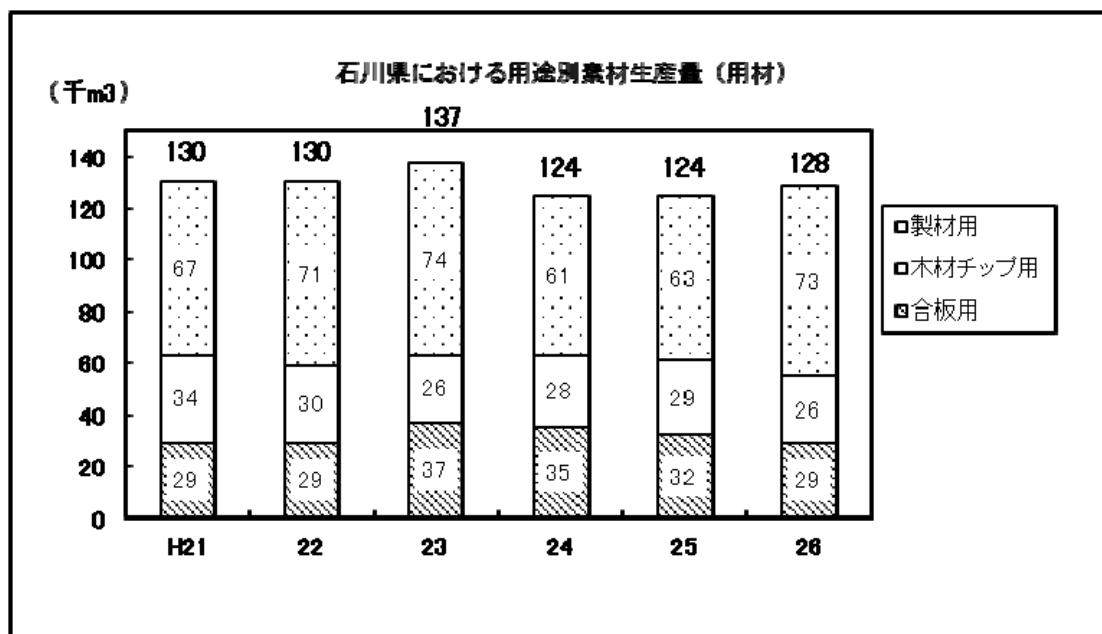
# I 石川県における木材の加工流通の概要

## 1 木材需給の現況

### (1) 素材(丸太)

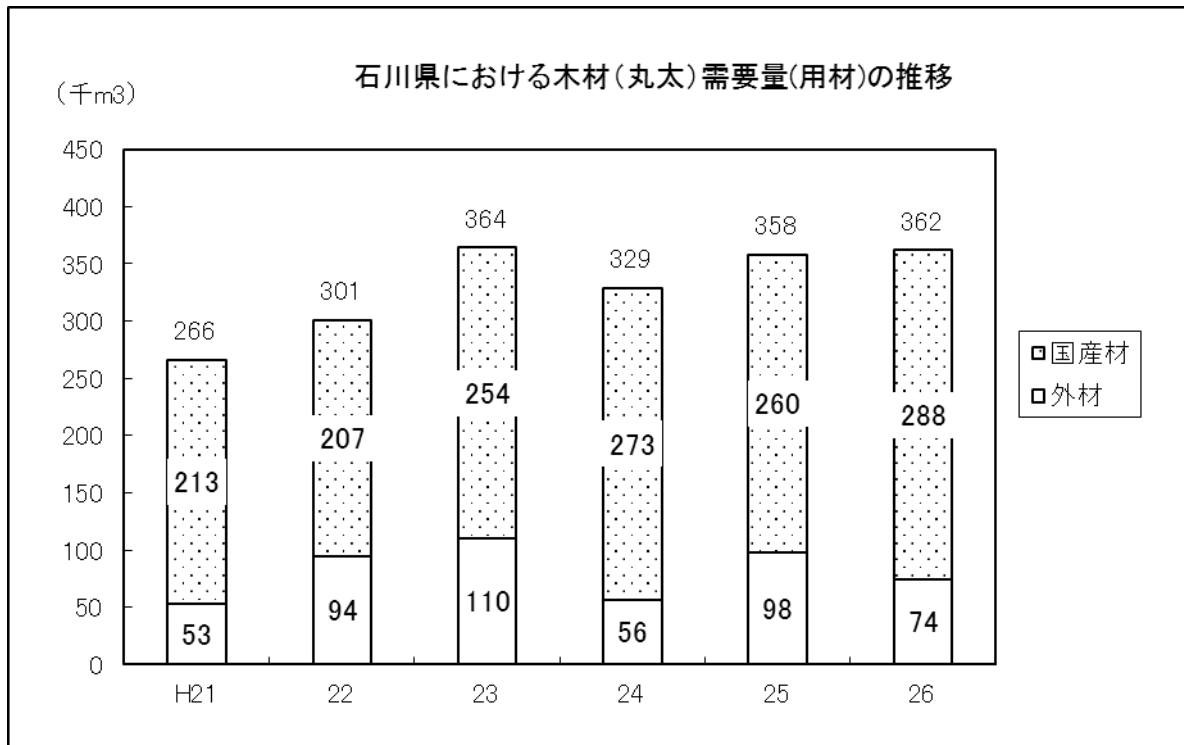
#### ○ 素材生産量は横ばい(Ⅱ-2表)

平成26年次の県内素材生産量は128千 $m^3$ (対前年103.2%)であった。用途別では、製材用が73千 $m^3$ (対前年115.9%)、合板用が29千 $m^3$ (対前年90.6%)、チップ用が26千 $m^3$ (対前年89.7%)となった。



#### ○ 木材需要量は横ばい(Ⅱ-8表)

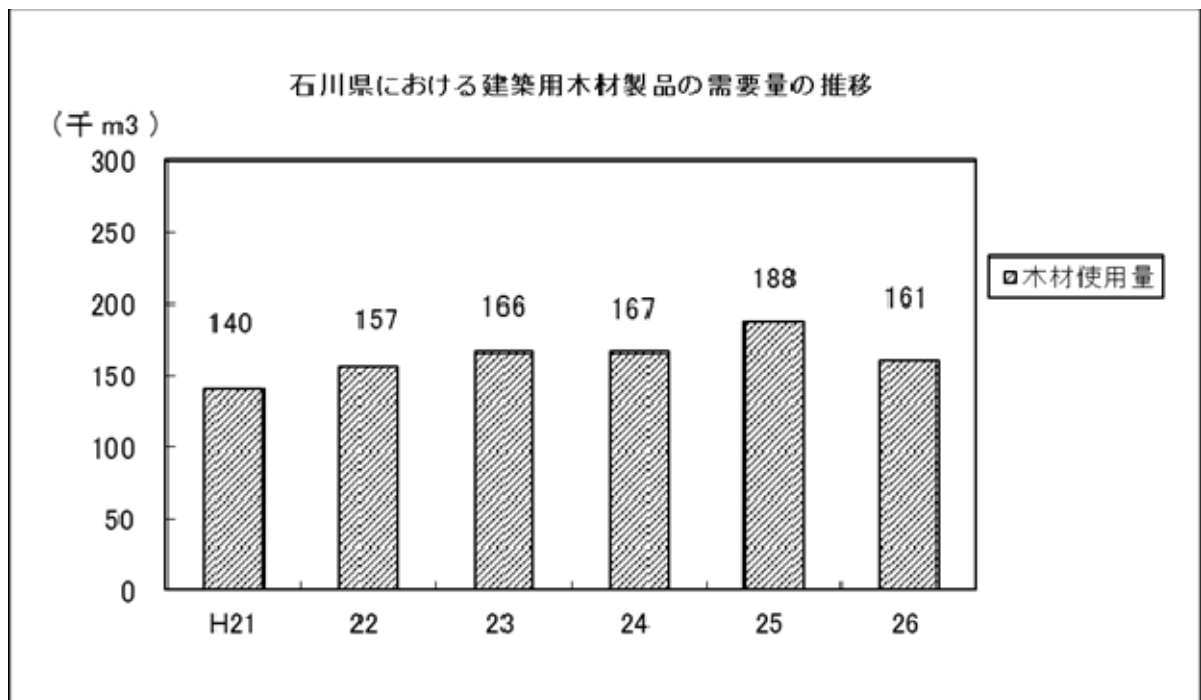
平成26年次の県内木材(丸太)需要量は362千 $m^3$ (対前年101.1%)となった。内訳は、国産材が288千 $m^3$ (対前年110.8%)、外材が74千 $m^3$ (対前年75.5%)であり、国産材の割合は、79.6%(対前年7.0ポイント増)となった。



## (2) 製品

### ○ 建築用木材製品の需要量が減少 (VI-3表)

平成 26 年次の県内建築物着工床面積は木造 598 千 m<sup>2</sup>(対前年比 81.0%)、非木造 678 千 m<sup>2</sup>(対前年比 96.3%)であったことから、建築用木材製品の需要量(推計)は 161 千 m<sup>3</sup>(対前年 85.6%)となった。



【推計方法】 木造：着工床面積(m<sup>2</sup>)×0.180(m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup>)

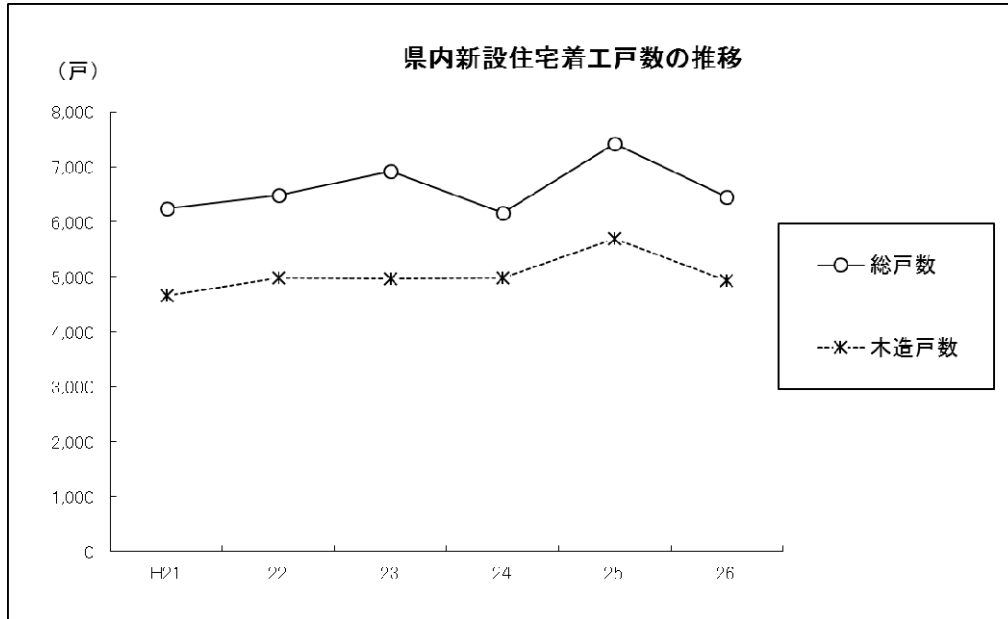
非木造：着工床面積(m<sup>2</sup>)×0.078(m<sup>3</sup>/m<sup>2</sup>)

(3) 新設住宅着工戸数の推移

○ 新設住宅着工戸数、木造戸数ともに減少 (VI-1 表)

平成 26 年次の県内新設住宅着工数 6,455 戸(対前年 87.0%)のうち木造住宅は 4,931 戸(対前年 86.6%)となった。新設住宅着工数の木造率は 76.4% (対前年 0.3 ポイント減)であった。

着工新設住宅の総床面積は 662 千㎡(対前年 82.6%)で、1 戸当たりの平均床面積は 102.6 ㎡(対前年 95.1%)であった。



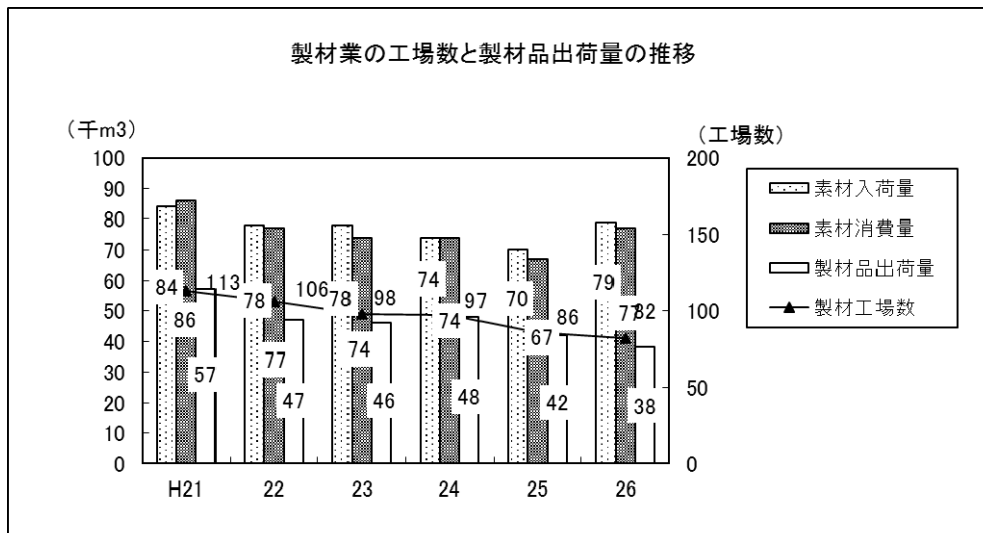
2 木材加工業の現状

(1) 製材業

○ 工場数が減少 (III-2 表)

平成 26 年次の県内製材工場数は 82 工場(対前年 4 工場減)、従業者数は 259 人(対前年 1 人増)となり、素材消費量は 77 千 m<sup>3</sup>(対前年 114.9%)であった。

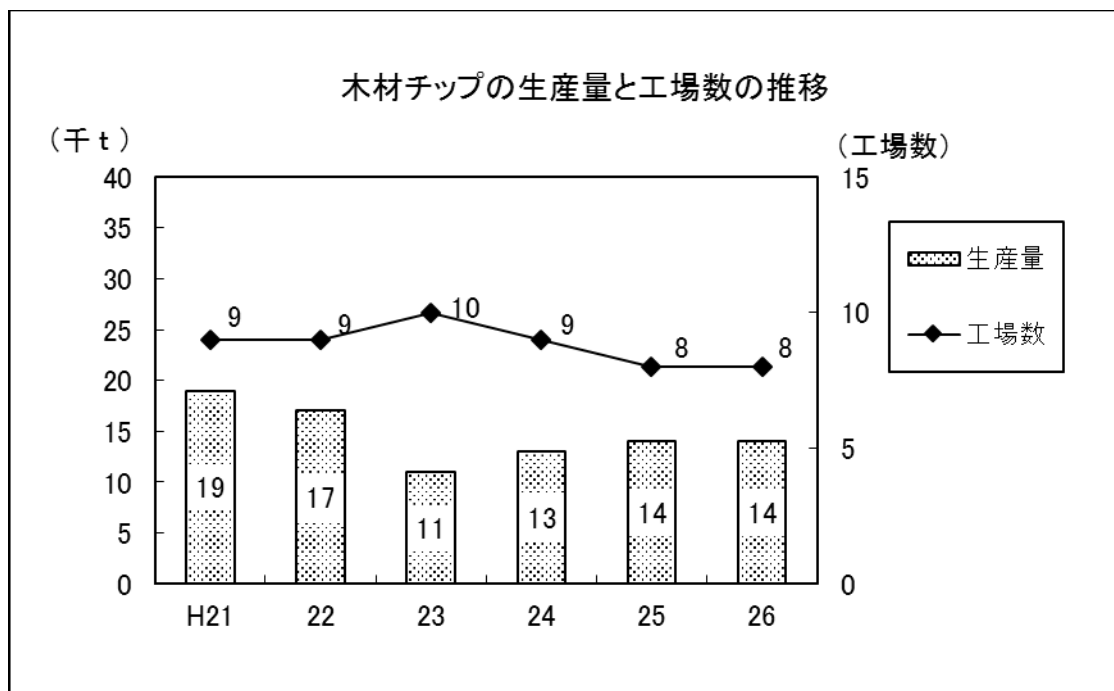
また、動力の総出力数は、7,575kW(前年比 100.8%)であり、1 工場当たりの平均出力数は 95.9kW であった。



## (2) 木材チップ工業

### ○ 生産量は横ばい (Ⅲ-6表)

平成26年次の県内木材チップ生産量は、14千t(対前年100.0%)となった。原材料入手区分別では、工場残材が6千t(対前年120.0%)、素材が8千t(対前年88.9%)となった。工場数は8工場(前年同)であった。



※合板加工業については、1社のみであるため記載を省略

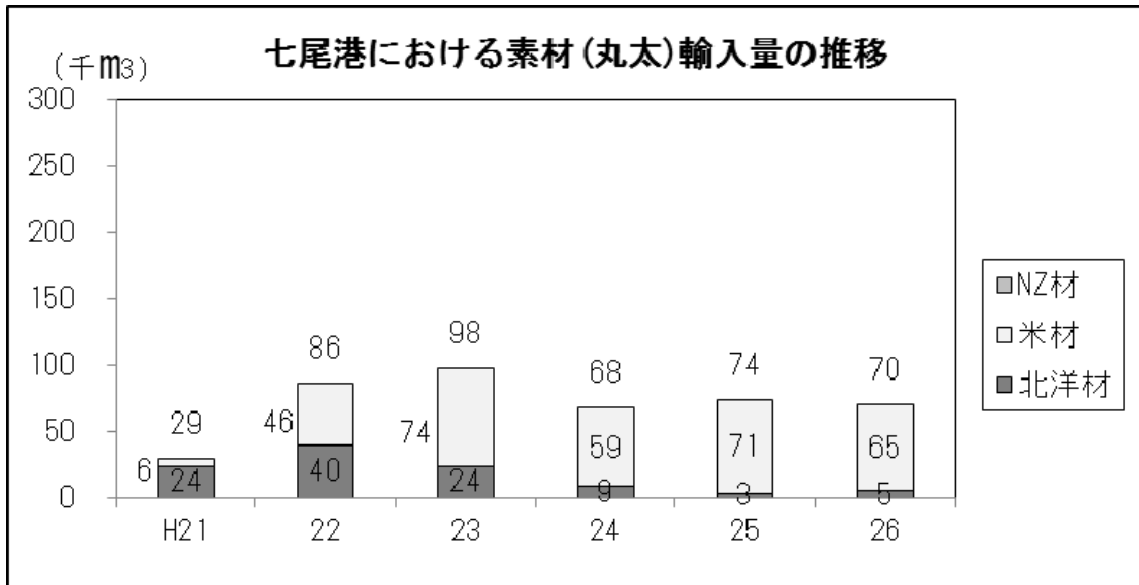
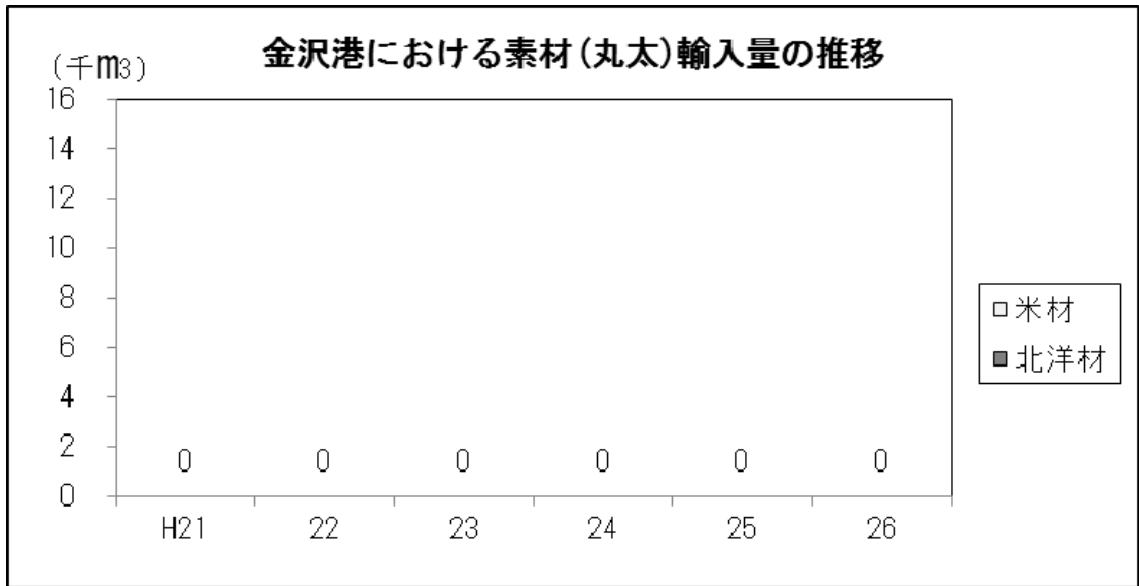
## 3 木材輸入の動向

### (1) 素材(丸太)

#### ○ 輸入量が増加 (Ⅳ-1・2表)

平成26年次の県内素材(丸太)輸入総量は $69,941\text{m}^3$ (対前年94.9%)で、そのすべてが七尾湾への陸上げであった。内訳は、北洋材が $5,041\text{m}^3$ (対前年161.9%)、米材が $64,900\text{m}^3$ (対前年91.9%)であった。

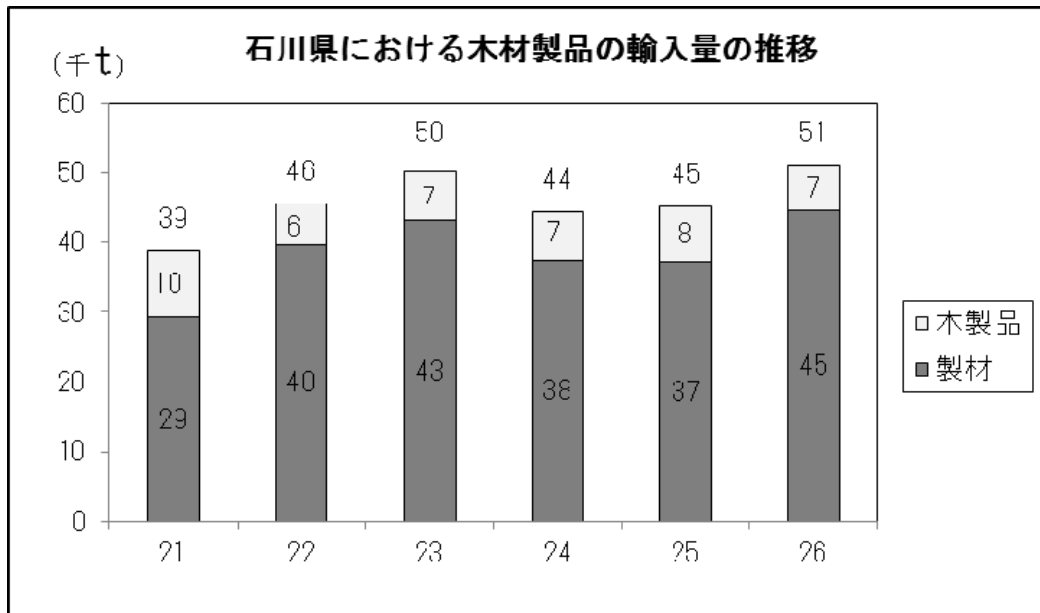
北洋材の内訳をみると、エゾマツが $3,255\text{m}^3$ (構成比64.6%)、アカマツが $1,785\text{m}^3$ (構成比35.4%)であった。



(2) 製品 (IV-3・4表)

平成 26 年次の県内木材製品の輸入総量は 51,995t(対前年比 111.9%)で、その内訳は製材が 44,521t(対前年比 119.6%)、木製品が 6,591t(対前年比 82.6%)であった。

注：木製品は、合板、集成材、建具等を指す。

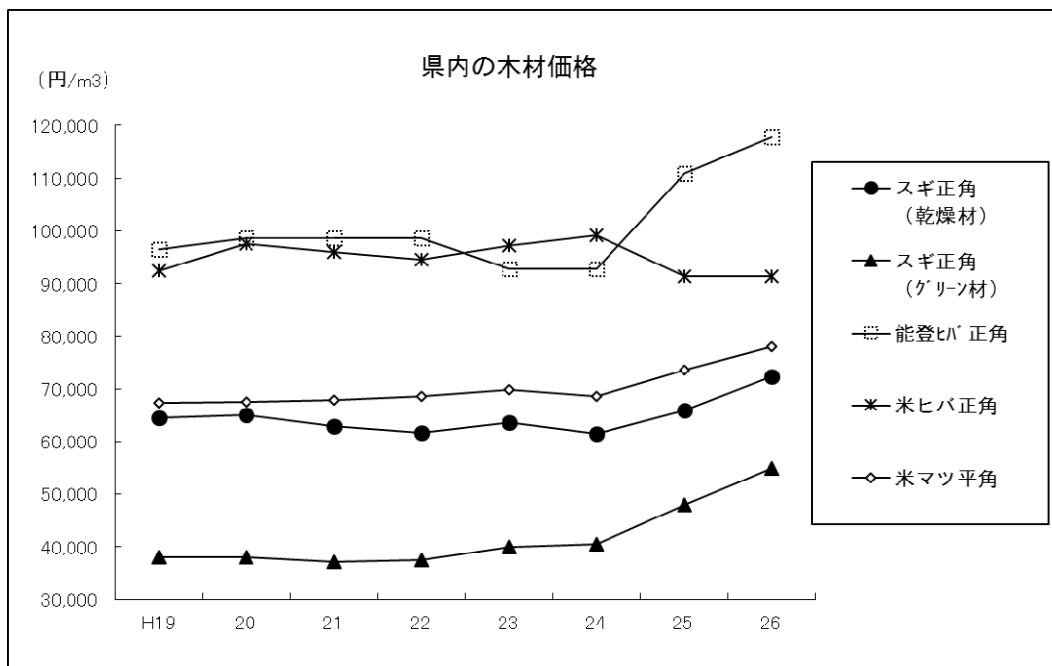


## 4 木材価格の動向

### (1) 製品

#### ○ 製品価格が上昇 (V-2表1)

平成26年次の県内の木材製品価格は、スギ正角(乾燥材) 72,400 円/m<sup>3</sup>(対前年 6,500 円高)、スギ正角(グリーン材) 55,000 円/m<sup>3</sup>(対前年 7,000 円高)、スギ正割 65,100 円/m<sup>3</sup>(対前年 9,200 円高)、能登ヒバ正角 117,900 円/m<sup>3</sup>(対前年 6,900 円高)となり、ベイヒバ正角 91,300 円/m<sup>3</sup>(対前年 100 円安)、ベイマツ平角 78,100 円/m<sup>3</sup>(対前年 4,600 円高)となった。



平成19年5月から価格動向調査の調査項目を一部変更。

注：スギ正角の調査について、乾燥材とグリーン材に分けて調査開始。

(2) 素材(丸太)

○ 原木価格が上昇 (V-2表2)

平成 26 年次の県内の素材価格は、スギ 11,700 円/m<sup>3</sup>(対前年 800 円高)、能登ヒバ 20,700 円/m<sup>3</sup> (対前年 2,300 円高) 北洋カラマツは 24,300 円/m<sup>3</sup>(対前年 3,300 円高) ベイマツ 30,600 円/m<sup>3</sup>(対前年 2,900 円高)となった。

